

# はばたき

2024. No. 100



# 法人会議

## 新しい形で法人会議を実施して

### はじめての映画館



映画館の裏側に入ったことがおありでしょうか？

今回、成田Humaxシネマで法人会議を開催することになり、係だからと映写室に入れるのは役得です。そこには、スターウォーズの等身大の人形があつたり、まさに「ニューシネマパラダイス」の世界。

昨年12月、吉野施設長と映画が始まる前の映画館にいき、館内は思いの他明るくならないことに驚き、改めて見るとステージがなかったり……そんな気づきからはじまりました。映画館の方も、会議の場として貸し出すのは初めてのことです、探り探りで話を詰めていきます。「演台はありますか?」「もぎり台はありますか?」「パワーポイントは使えますか?」「チケットはどうしますか?」お互い一つずつ確認しながら、打ち合わせを進めていきます。その後、法人内でも担当者がかきまわり、会場、映像関係と急ピッチで準備が進んでいきました。

3月16日法人会議当日、最初の動画がはじまり、一番前の席から振り返ると、職員で座席がうまっています。理事長をはじめ、担当者のおかげで、何とか形になったと一安心。振り返れば、「映画館での法人会議」という新しい試みは、本当に楽しい時間でした。さて、今年を超えるPart IIは……。期待に胸が膨らみます。(榎原 聡)

## 研究発表

### 法人会議での研究発表

強度行動障害のある方の支援者に対する研修(通称16人研修)で、過去5年間に参加した職員がそれぞれの事例対象者の報告を事例研究発表という形で行いました。

前日に悩みに悩んでタンスから引っぱり出した冬用のジャケットを着て会場に向かい、映画館に着くと、何とも言えない緊張感。当日のこの瞬間に向けて報告者5名で何度も何度も打ち合わせをし研修を通して学んだ大事なポイントを整理しながら完成度の高いものを目指して準備。

そこでまとまった皆さんに伝えたい一番大切な事は、「強度行動障害」という言葉があつても、彼らも私たちと変わらない。ただ、自身のアピール表現の仕方が皆と少し違うだけということでした。

それを理解し、チーム一丸となってサポートしていただけるかがとても大切でした。

今この時も、在宅で先の見えない生活を送っているご家族も多くいる中、いち早く向き合って、サポートしていく役割が我々にはあります。



今回の発表、またその過程の中で、チームの力を合わせることで素晴らしいものが作り上げられるということを学んだ機会となりました。(小市 直人)

## 永年勤続表彰 入職して20年間の軌跡

### 皆様に支えられて



平成5年4月1日に入職しました。南館が竣工した年です。その年は、入所定員が58名から108名に増えた年でもありました。何もわからないまま入職し、覚えることは山のようにあり、意気込みはあっても空回りの日々……。今思うと、どれだけ先輩方や同僚に迷惑を掛けていたのかと思ひ出されます。それでも作業や行事などを通して利用者の方々と過ごす時間は本当に楽しかったです。

一度子育てで法人を離れましたが、その後、光風みどり園、梨香園の皆さんの笑顔を支えに本当に充実した日々を過ごしました。現在は、大久保学園地域生活支援センターで相談業務を担当させていただき、時に悩みながら切磋琢磨する毎日です。振り返ると長かった様であったという間の時間ではありましたが、沢山の方々の助けを借り、支えていたという実感があります。また、大久保学園の歴史に携わることが出来て有難いと同時に、まだまだ未熟ではありますが、これからも使命感を持って誠実でありたいと思います。これからも宜しくお願い致します。(加藤 道子)

社会福祉法人大久保学園20年勤続表彰者

関本 憲吾 加藤 道子

千葉県社会福祉事業共助会長期在籍会員顕彰者

入澤 哲夫 伊藤 祐

# 五十年の節目

理事長 千日 清

令和六年度を開始した。既に真夏日も数回訪れる時期となり、片方では報酬改定やら制度の見直し等など事務方のみならず、職員全員に周知し進めていくには、自らが理解しなければと思いはするけれど、理解力の乏しい自分に歯がゆさを感じる六月を迎えている。

利用者は健康で安全に生活しているか？

職員は元気に仕事と向き合っているか？

法人内事業所に職員は満たしているか？

法人の財布は、空にはなっていないか？

自分の仕事に忘れ物はないか？

大体考えていることは年間常と同じであるが。

全職員が、この思いや感覚を持って歩むこと仕事をすることが大切である。絶対に。

施設整備計画も順調といえれば順調。秋には着工できる、開発許可もいただいた。現場支援職員が、建物の部屋や設備の設計計画に参画し、設計士との定例打合せで発言する頻度も俄然高まってきた。利用者の生活環境創りに、支援職員が直接関わっていくことはとても重要なこと。職員サイドでの考えが優先されていないかはチェックポイントで。大いに学んで欲しい。来年二〇二五年秋にはグループホームと短期入所が大きく整備される予定である。地域移行と入所定員の見直しを進めていく。

法人は創立五十三年目を迎えている。入所五十名から始まった。施設をこの船橋の地に創り、障

害者福祉に取り組まれた先人達の思いや願いは、今も引き継がれていると思いたい。どのような時代となっても、福祉の理念は不変であるからこそ、くり返しくり返し、半世紀が経過した。勿論福祉は生ものであること、即応性が求められる新しい福祉の在り方を十分に自覚しながら。

前理事長、中原 強先生が二月二六日ご逝去された。長きにわたる在宅療養の甲斐なく、享年七十七歳でおられた。中原先生とは四十二年間一緒に過ごさせていただいた。道半ばの仕事であったこと、この無念さははかり知ることではできない。とてもお世話になった。寂しくなった。

広報誌は開設当初から「あすなる」と題して約五〇号を発行、「はばたき」に名称を変えて今回一〇〇号。年三回を発行してきた。五〇年。法人は進化していかなければならない。

表紙を飾る新任職員。辞令交付式。

職員旅行も楽しみ。

バレーボールも野球も頑張つて応援する。

リレーも手に汗。

一〇〇号を飾る原稿としては軽かった。

しかし歴史は重い。



## グループホーム新設に向けて

昨年10月から準備が始まりました。9月頃頃から着工、来年7月には完成予定です。先ずは設計士に現場を見て頂き、どのような方々が暮らしているのか。普段生活する上で大切にしていることを伝え、現場を知って頂く事から始まりました。当初は、なぜ私がこのチームに選任されたのか、大勢の職員がいる中でこの大事なプロジェクトに携わっても良いのだろうか、不安でいっぱいでした。いざ、話し合いが始まって、内容について行けず、振り返りや反省を行う毎日でした。せつかく大きな仕事に携わらせてもらっているのだから自分が出ること、を積極的にやってみようと考え、メールチェックや会議の録音、建設用語や内部の仕様を調べたりしました。その事で徐々に内容が理解でき、完成時の想像から自身の考えを伝える事ができるようになってきました。今でも不安はありますが、それ以上にこの計画に携わることができ、やりがいも感じます。今後、協議を重ね、完成した建物で住まれる利用者が、安心して過ごして頂けるよう、今後も協議を重ねてまいります。(久銘次 真歩)



建設予定地 (大久保グランド)

### お花見会

私はお花見会の係りとして数カ月前からチームで準備を行ってきました。絶対に成功させたいという気持ちと同時に不安と緊張が入り乱れ複雑な感情のまま当日を迎えていた事を今でも覚えています。定刻を迎え開会の挨拶をいただき待ちに待ったお花見会が開催しました。ロータリークラブ様の献身的なボランティア活動により各テーブルにスムーズに昼食が運ばれた後サクシードの演奏に移りました。サクシードお得意の曲で盛り上がり次の演目はフラワービート様の演奏です。事前に入念な打ち合わせを行い利用者も職員も大盛況でプロの力を目の当たりにした瞬間でした。楽しい時間があつという間に過ぎてしまいました。閉会の際にロータリークラブ幹事の井口様と千日理事長のご挨拶を終え、無事にお花見会の幕を閉じました。今回の一大イベントを取り仕切る上にあたり失敗した事や困難が多々ありました。無事お花見会を完遂出来たのは支えてくれた仲間のおかげが大きかったのでないかと思えます。これからも様々な仕事に仲間と一緒に取り組んでいける様、失敗と挑戦を繰り返しながら真摯に仕事に取り組んでいきたいと思っています。(西澤 亮太)



### 佐倉朝日健康マラソン

3月24日(日)利用者5名と職員4名の引率で佐倉マラソンに参加しました。今年目標は「10km1時間を切ること」を掲げ、秋から練習を始めて冬にかけて少しずつ距離を伸ばし、スピードも落とさないよう練習の質にもこだわってきました。佐倉マラソンの昨年度の利用者さんの最速記録は1時間2分台でした。今年度は練習量と質を高め自信も最高潮。伴走する職員も身体を仕上げて当日に臨みました。レースは序盤の1kmから利用者さんとの間で抜かれては追い越しを繰り返す激しい争いを見せてくれました。レースが進むにつれ5km付近では一人の利用者さんが独走状態でしたが7kmから徐々に差が縮まり、ついに8kmで大久保学園の中で2位につけていた利用者さんが追い抜いてそのまま逃げ切りました。レースの展開も良く好タイムに期待がかかります。結果は1時間・6分！利用者さんよりも伴走した職員の悔しそうな表情が印象的でした。次回はリベンジをかけて目標は変わらず「10km1時間を切ること」を掲げ再スタートしていきます。応援よろしくをお願いします。(三好 享典)

### イチゴ狩り

春と言えば、ひな祭り、お花見そしていちご狩り。いちご狩りは視覚・触覚・味覚嗅覚で楽しめる梨香園の春のメインイベントです。当日、春特有の不安定な天候や、参加利用者の体調など心配案件は、利用者の参加意欲がそれらを吹っ飛ばしてくれました。皆一様にわくわくしている様子が伺え、楽しくて声が出てしまう方、何度も出掛ける事を職員に確認する方で車内は大賑わいでした。昨年もお世話になった白井農業生産組合アグリばあくのピールハウスには、紅ほつぺやとちおとめなど8種類ものいちごが栽培され、真っ赤ないちごだけでなく、白いいちごもあり、立ったままいちご狩りが出来る高設栽培です。ハウスの中を各々が自由に移動しながら、目を輝かせて摘み取る様子が伺え、存分に摘み取り頬張った後は、いちごのお土産を持って帰り、保護者からも「おいしかった」「楽しそうで良かった」との感想を頂きました。(和久 尊彦)



# 新しい場所で ～異動職員～

## 大久保学園

した。学生時代に保育士資格を取得したものの、障害者施設での実習でやりがいや魅力を感じ大久保学園に入社しました。働き始めて15年。まさか保育士として働く日が来るとは思ってもいませんでした。私自身、企業内保育に子供を預けていたこともあり「保育室なかよし」はとても近い存在ではあります。ただ保育士経験がない私にとって不安は大きいですが、保育士経験はないけれど、やんちゃな男児と格闘しながら毎日を過ごす育児経験はあります。その経験を活かし、保護者が安心して子供を預けて働ける場、そして子供たちが楽しくのびのびと過ごせる場を作っていきたいと思います。晴れた日には近くのアンデルセン公園まで散歩に行き、自然に触れながらたくさん身体を動かして遊ぶことができます。とても良い環境だと感じています。毎日子供たちの笑顔に癒され、成長を近くで見守ることが出来る喜びを感じながら、精一杯頑張りたいです。



大久保学園 保育士  
齋藤 結佳

大久保学園で働き始めて何回か異動は経験しましたが、今回は企業内保育への異動となりました。

## 梨 香 園

私は元々人と関わるのが好きで、前職では受付事務や営業をしていました。そこからスキルアップをして人を支える仕事をしていきたいと思い、大久保学園に入社しました。

現在は社会福祉士の資格習得を目指し、通信大学に通いながら勤務をしています。仕事をしながら勉強する日々は大変なことも多いのですが、職員の皆様も優しく仕事を教えてくれるので、両立することができています。今まで色々な業種で働いてきましたが、今の仕事が一番楽しく、生き生きと働くことができていると感じています。

まだまだ福祉について知らない事ばかりです。様々な発見があり、とにかく勉強の毎日です。今後もたくさんの方々の皆様と関わり、「今日も楽しかった」と笑って終わることができる日々を送っていたいだけ、そんな支援が出来るとなりたいと思っています。笑顔と挨拶を忘れずに精一杯努めて参ります。



梨香園  
菅島彩依里

今年度より、入所施設大久保学園から梨香園配属となりました。大久保学園に入職してから約1年

## 大久保学園

る前は、事務仕事をしながら訪問や面談、電話相談を受ける仕事をしていました。転職してからの5年間は、利用者さんのそばで直接生活を支援する立場になり、前職とは180度違う仕事内容に目を回しながらも、日々体当たりで仕事に向き合っていたのを昨日のこのように思い出します。今年からは相談支援専門員として新たなスタートを切ることに、再び目を回しています。わからないことや慣れないことがあり戸惑いも多々ありますが、ベテランの先輩方に教わりながら日々勉強させていただいています。先日は計画相談のための訪問に同行させていただきました。さまざまなお話を伺いました。お聞きしたお話の内容を参考に、今後その方に必要な支援の方向性を計画書としてまとめ、作成していくこととなります。対象の方々がよりよく生活をしていくための身近な相談相手として、役割を果たせていけるように尽力していきます。



大久保学園 地域生活支援センター  
露末 あみ

今年度から地域生活支援センター・計画相談支援の配属になりました。大久保学園に入職す

# ～今年度も宜しくお願いします～

## 辞令交付式

桜の開花を心待ちにする令和6年4月1日。大久保学園では辞令交付式を執り行いました。新規採用職員と各事業所の代表者が「とよとみみらい」に集まり、千日理事長より新年度の辞令を受けました。交わす言葉は「よろしくお願ひします」という短いものですが、それぞれの心内には「自分の役割は」「心機一転頑張ろう」「信頼される職員に」「今年度のバージョンアップは」など、それぞれの思いが詰まった区切りの日・始まりの日となります。

私自身、ココに集まっている今も利用者の隣にいて、活動を、そして生活を繋いでいる仲間がいることに、ありがたさと心強さを感じて辞令を受けました。

新規採用職員は「1人ひとりが今日から大久保学園」、代表者は「何とかしてくる人たちだと思っている」という理事長からの言葉を自分に落とし込んで持ち帰っています。

各事業所でも辞令が交付され、1人ひとりが、区切りと始まりの思いを見つめた1日。「期待にこたえる、大久保学園」令和6年度が始動します。(山田 一心)



## 薬剤師訪問サービスの導入について

令和3年グループホームから導入された薬剤師訪問サービスは、今年度より入所の利用者においてもサービスの利用が開始となりました。

施設における看護師の役割の一つとして服薬管理が挙げられますが、180名に及ぶ利用者の服薬管理は非常に複雑で緊張感があり、時間を要する仕事だと感じていました。

サービス開始により病院・診療科を越えて一人一人の処方内容を薬剤師が管理することで、注意すべき副作用や他の薬との飲み合わせの確認、処方内容変更後のフォローなどを引き受けていただけ的存在ができたことはとても心強いものとなりました。こうしたサポートを受けることでより安全で効果的な薬物療法が提供できるようになっただけではなく、看護師が不調者の状態確認や創傷処置、通院などの業務に時間を当てられるようになり、健康回復や疾病予防に力を注ぐことができるようになりました。

これからも薬剤師に限らず施設に関わる様々な役割を担う職員と協力しながら、利用者の健康管理に努めていきたいと考えています。(森江 梨沙)



サービス導入時の様子 (保坂看護師)

## 寄付金

令和六年一月二十六日  
〜令和六年三月三十日

「後援会」  
後藤美重子

「一般」

㈱イトーヨーカドー我孫子店  
大久保学園 後援会  
東京城西ロータリークラブ  
(敬称略)

ありがとうございました



前回の記事から問い合わせが多々あった薬剤師訪問サービスについて

掲載させて頂いています。行事の様子や職員の記事だけでなく新しい試みも掲載していきたいと思っています。多面から広く愛読して頂いていることを改めて感じております。

広報誌「はばたき」は、今回で100号となり、歴史の重みを感じます。今後も気合い入れて頑張ります。(飯田 光洋)

はばたき 二〇二四 一〇〇号

発行/令和六年五月

発行所/社会福祉法人 大久保学園

TEL 〇四七(四五七) 二四六二

FAX 〇四七(四五七) 四〇六九

URL <https://www.okubogakuen.or.jp>

Mail [shienka@okubogakuen.or.jp](mailto:shienka@okubogakuen.or.jp)

編集/大久保学園 広報委員会

表紙書/中原 強